

# 要 望 書

《国道349号整備促進について》

【平成25年11月】

国道349号建設促進期成同盟会  
会 長 根 本 匠



## 国道349号の整備促進について

国道349号は、昭和50年4月に国道へ昇格以来、貴県の特段のご高配により漸次改良整備が進められ、着々とその成果が得られていることに感謝申し上げます。

国道349号は、茨城県水戸市を起点に福島県の阿武隈山系を縦断しながら宮城県柴田町に至る実延長約260km、沿線3県・18市町村に及ぶ路線であります。阿武隈山系を縦断するという路程から、その多くが山間部を通過しており、未だ各所に幅員が狭隘で、かつ、屈曲の甚だしい箇所があります。また、沿線市町村の中心市街地等を通る路線でも、歩道等交通安全施設の整備が遅れているため、近年の通行量の増加、特に大型車両の増加によって歩行者の安全が脅かされているなど、その実情は次頁以降に記載されている整備促進要望箇所が示すとおりでありまして、地域住民からは一日も早い改良整備が強く求められております。


道路は、人と暮らしを支え、豊かな地域社会を形成する上で最も基本的な社会資本であることは言うまでもなく、道路網の整備なくして、地域の発展は成し得ません。

さらに未曾有の被害をもたらした東日本大震災において道路は、支援物資の運搬や緊急車両の通行など「命をつなぐ道」として、その重要性が再認識されたところであり、特に国道349号は、高速道路等幹線道路の機能が失われた際にその機能を補完できる道路として、その整備が改めて重要視されております。

つきましては、沿線市町村の振興発展と沿線住民の安全・安心の確保、そして幹線道路災害時の補完機能を強化するためにも、沿線市町村が求める整備促進要望箇所について、早急に整備を図られるよう強く要望いたします。

## 国道 349 号 整備 促進 要望 箇所

県名	市町村名	要 望 箇 所		事 業 名
		箇所名 (地名)	延長 m	
茨城県	那珂市 常陸太田市	那珂市杉～常陸太田市瑞龍町	10,400	道路改良 〔 幸久大橋を 含む4車線 化工事 〕

市町村名	茨城県那珂市・常陸太田市		
要望箇所	那珂市杉～常陸太田市瑞龍町		
	事業名	道路改良	
	延長 (m)	10,400	
	<p>《現状と要望事項》</p> <p>「那珂市杉」～「常陸太田市瑞龍町」の間は、福島県及び茨城県北部から茨城県都である水戸市及び常磐自動車道那珂ICへのアクセス道路として重要な役割を担う路線ではありますが、暫定2車線のため、朝夕の通勤時や行楽シーズンには、数キロにも及ぶ大渋滞が生じております。</p> <p>つきましては、本年度、一部区間で4車線化工事に着手いただいたところではありますが、幸久大橋を含む全区間の早期完成について、強く要望いたします。</p>		





# 国道349号建設促進期成同盟会 構 成 員

会 長	根 本	匠 (衆 議 院 議 員)
	高 橋	靖 (茨城県 水 戸 市 長)
	吉 成	明 (茨城県 日 立 市 長)
副会長	大 久 保 太	一 (茨城県 常陸太田市 長)
	海 野	徹 (茨城県 那 珂 市 長)
	清 水 敏	男 (福島県 い わ き 市 長)
	古 張	允 (福島県 矢 祭 町 長)
副会長	菊 池 基	文 (福島県 塙 町 長)
	大 樂 勝	弘 (福島県 鮫 川 村 長)
	岡 部 光	徳 (福島県 古 殿 町 長)
	澤 村 和	明 (福島県 平 田 村 長)
	大 和 田	昭 (福島県 小 野 町 長)
	富 塚 宥	暲 (福島県 田 村 市 長)
	三 保 恵	一 (福島県 二 本 松 市 長)
	古 川 道	郎 (福島県 川 俣 町 長)
	仁 志 田 昇	司 (福島県 伊 達 市 長)
副会長	保 科 郷	雄 (宮城県 丸 森 町 長)
	大 友 喜	助 (宮城県 角 田 市 長)
	滝 口	茂 (宮城県 柴 田 町 長)

# 《国道349号全線図》



## 【沿線市町村】

◎宮城県  
柴田町  
角田市  
丸森町

◎福島県  
伊達市  
川俣町  
二本松市  
田村市  
小野町  
いわき市  
平田村  
古殿町  
鮫川村  
埴町  
矢祭町

◎茨城県  
常陸太田市  
日立市  
那珂市  
水戸市